

いまばり探求
大浜
おおはま

来島海峡に臨む大浜地区は、海峡航路の地の利に影響を受けた、海のロマンあふれる歴史遺産が数多く残されます。

海峡大橋を間近にひかえ、海峡航路を通航する多種多様な船舶や川のように流れる潮流を身近に感じることができます。

秋祭りに
權伝馬あり

参道入口に
鳥居あり



戦国時代末期、来島海賊衆の拠点の一つ。当時、大浜は来島村上氏の城下町だった。


1号墳に隣接。前方後円墳(全長53m)古墳時代前期か

昭和42年当時の相の谷1号墳 (愛媛県歴史文化博物館『今治市相の谷1号墳出土遺物』より転載)



① 来島海峡海上交通センター
(通称名/来島マーチス)
来島海峡は1日平均約600隻の通航船舶がある海上交通の要所で、潮流の向きで6時間ごとに航路が変わる世界で唯一の変則航法もあり、この施設で航行安全の管制業務を行っている。

「海の日」に施設内部が一般公開され、管制塔の塔頂体験も行っている。




② 相の谷古墳 ※今後の学術調査に期待!
1号墳は古墳時代前期・4世紀の前方後円墳で、全長81mは愛媛県最大。標高60mに立地。竪穴式石槨(せっかく)からダ龍鏡(獣紋鏡)が出土し、埴輪・壺の破片も多く採取されている。



③ 大浜八幡神社
主祭神の伊弉命(オチノミコト)は、今治を代表する古代豪族・越智氏の祖とされる。江戸時代は今治藩第一の神社として、城下の武士・町人の信仰も厚く、奉納物が豊富である。



③ 今治藩主の御座船板図 ※拜殿の中
天保11(1840)年5月に竣工した今治藩主御座船・大寿丸の設計図面。水押しに藩主の家紋・梅鉢紋がある。357×71(cm)。愛媛県内に現存する藩主御座船の板図としては唯一。



③ 御用商人寄進の船模型 ※拜殿の中
今治藩御用商人の柳瀬・黒部・深見らが、海上安全を祈願して慶応3(1867)年に寄進。精巧につくられたミニチュア模型で、構造は舟才船(べざいせん)ではなく御座船である点が興味深い。



③ 沖冠岳らの奉納絵馬 ※拜殿の中
今治出身の沖冠岳(1817~76)は、谷文晁ら江戸南画家の画人と交流し、江戸にて伊勢神戸藩のお抱え絵師であった。郷土で活躍した絵師山本雲溪(うんけい)の大絵馬も飾られている。